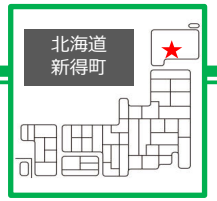
# ① 農事組合法人 共働学舎新得農場

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可




障害者や生活困窮者、ひきこもりの状態にある者など、「働きづらさ」や「生きづらさ」を抱える方を受入れ、農作業や集団生活を通じて「自立のための支援」を行うソーシャルファーム。高品質のチーズは世界的に高い評価を得ている。

## 基本情報

- 所在地：北海道新得町
- 団体名：農事組合法人共働学舎新得農場
- 選定表彰：令和２年 Japan cheese Awards金賞（最優秀部門賞）、令和３年 World Cheese Awards金賞など、ノウフク・アワード2022グランプリ
- 主力商品：「さくら」、「ラクレット」、「シントコ」などのチーズ、野菜
- 取得認証等：なし

チーズ各種

農場ガーデン

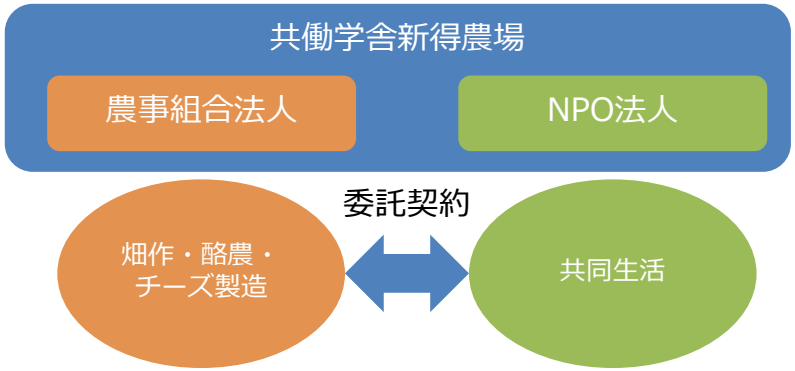
## 取組の概要

○農事組合法人とNPO法人の２つの組織により構成。農事組合法人は農業生産・加工・販売の場、NPO法人は主に生活の場。
○農場の消臭等環境対策として「炭」を用いるなど、日本の伝統的な知恵を生かし、その土地にあった農業生産やモノづくりを推進。
○農事組合法人では、農作業、家畜の世話や畜舎の管理、乳加工品製造、工芸などの作業のほか、売店やレストランに関する作業があり、農事組合法人からNPO法人に対して、チーズ製造や農作業などの生産に係る作業を委託。
○多種多様な作業があるため、メンバーが自分にあった作業を選択することにより、自分の役割を見いだせるように工夫。日々の作業にあたって、主体的に行動できる環境を構築。
○生産した農産物は、外食事業者へ販売するほか、敷地内の売店やカフェ、インターネットで販売するなど、６次産業化にも取り組む。

チーズ熟成庫

給餌風景

## 体制図




## 取組の成果

○自らの意志でその日の行動を選択できることにより、主体性のある考えと思いやりの心が育まれる。
○ 素早い作業が苦手でも、質の高い丁寧な手作業により高品質な商品を作ることができる。これにより、社会参加を自覚できるほか、精神的ゆとりを持つことが可能となっている。
○ 農場での経験を生かし、自身でチーズ工房を立ち上げる者、チーズ工房に勤める者や農業を営む者など、自立した生活を実現した者を多数輩出。

所在地▶北海道上川郡新得町字新得9-1
連絡先▶TEL:0156-69-5600　E-mail:shintoku@kyodogakusya.org
ウェブサイト▶https://www.kyodogakusya.org/

# 【取組のプロセス】

**昭和49年**

牧場作りの準備

**きっかけ**　**代表の父親が「自労自活」をモットーとする共働学舎を長野県に開設**

### 酪農を学ぶため海外留学

○ 代表は、世界に通用する酪農業を学ぶため、米国ウィスコンシン州へ渡り、酪農実習及び大学留学。

**昭和53年**

### 十勝の新得町に招かれ共働学舎新得農場開設

○ 障害者や生活困窮者などの社会参画や、触法者や非行少年の立ち直りの場として、また、家庭生活や社会生活において「生きづらさ」を抱えている人々の働く場として、共働学舎の４番目の農場となる新得農場を開設。

平成３年度畜産基地建設事業を活用し加工施設を建設

**平成4年**

### 乳加工品で自立を目指す

○ 乳牛を飼育し、チーズの製造・販売を開始するため、ルーズバーン牛舎、搾乳室及び乳製品加工施設（チーズ工房）を建設。

地域交流や生産物の販売を模索

平成15年度地域畜産活用交流推進事業の活用し、交流センターを建設

**平成16年**

### 交流センター「ミンタル（売店、カフェ）」完成

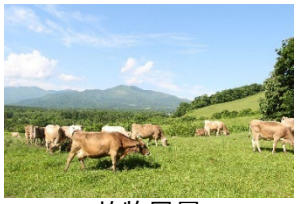
○ 多くの人たちとの出会いの場、交流の場として「ミンタル」（アイヌ語で「広場」、「人の行き交う場所」の意）を開設し、製造したチーズの販売やチーズ料理などの飲食提供を始める。

**今後の展望**

### 「これまで」も「これから」も

○ 「生きづらさ」を抱える人々が活躍できる場として、これまでどおり「ゆっくりした空気感」を大切にしたい。

○ 牛には無理な乳量を求めず、人にもゆったりした環境を維持しつつ、営農を継続するために、免疫力を高めるなどの高品質で付加価値のある製品を安定して製造していきたい。


放牧風景

メンバー集合写真

チーズ工房外観

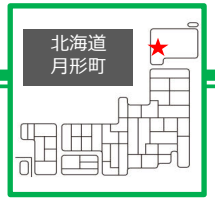
ミンタル店内

ラクレットオーブン

更新年度:R5

# ② 特定非営利活動法人 サトニクラス
## 就労継続支援A型サトニクラス酵房

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可




障害特性に応じてチームを編成し、野菜生産から漬物製造・販売までを一貫して行うことで、通年で障害者の作業を安定的に創出。地域における先導性・モデル性の高い農福連携の取組を行っている。

## 基本情報

- 所在地：北海道月形町
- 団体名：特定非営利活動法人
  サトニクラス
- 選定表彰：「わが村は美しく－北海道」
  第９回コンクール大賞
  （主催：国土交通省北海道開発局）
  ノウフク・アワード2022
  チャレンジ賞
  （主催：農福連携等応援コンソーシアム）
- 主力商品：漬物、味噌、米麹、乾燥野菜
- 取得認証等：ー

## 取組の概要

○ 就労継続支援A型事業所「サトニクラス酵房」を運営。知的・精神・身体障害を持つ7名の利用者が、約１haの農地及び加工場で、野菜生産や漬物製造等を通年で行うほか、月形町内外の農家７戸に施設外就労し、水田の除草や野菜の収穫等に従事。

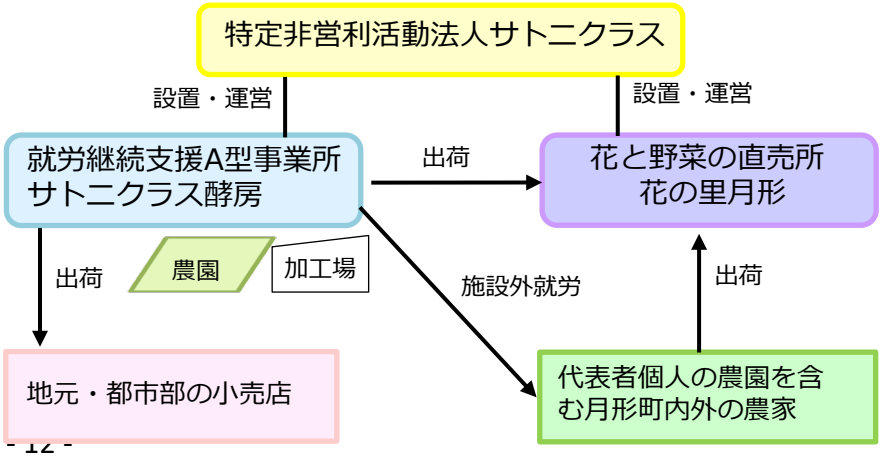
○ 職業指導員の見立てにより、障害特性に応じて１組２～３人のチームを編成。また、漬物製造工程を細分化し、利用者を配置。

○ 乾燥野菜の開発、農業者が必要とする労働力の調査、障害福祉の知見を有する農作業指導者の育成など、取組拡大の努力を継続。

農作業の様子

漬物の製造

## 体制図




## 取組の成果

○ チーム作業により、収穫適期の野菜の見落としが防止されるなど、作業の正確性が向上し、職員による事後確認や、やり直し作業が減少。

○ 漬物製造工程の細分化により、生産性が向上。製造量は、開始当初の200パックから2,000パック（令和元年度）へと10倍に増加。

○ 令和元年には、農福連携の取組が先導性・モデル性の高い活動と評価され、北海道開発局主催の「わが村は美しく-北海道」運動第９回コンクールにおいて大賞を受賞。

所在地▶北海道樺戸郡月形町字当別原野420-9
連絡先▶TEL:0126-35-1235　　E-mail:npo@satoniclass.com
ウェブサイト▶https://www.satoniclass.com/

# 【取組のプロセス】

**きっかけ**

**里山的環境が残る月形町で、地域の福会福祉法人や都市住民の力を合わせたコミュニティを創り、「里に暮らす」ことを継承したいとの想いから、NPO法人を設立し、札幌市からニートを受け入れ**

## 平成23年

月形町内の知的障害者施設「雪の聖母園」の旧寮舎を漬物加工場として利用。

## 平成26年

厚生労働省の緊急雇用創出事業に採択され、３名の正規雇用を実現。

### サトニクラス酵房の設置・運営を開始

○ 平成26年に就労継続支援A型事業所「サトニクラス酵房」を設置し、障害者就労を開始。

## 平成27年

都市農村共生・対流交付金事業に採択され、農福連携の取組を本格化。

### 地域を巻き込んだ農福連携の取組を本格化

○ 平成27年に「つきがた農福交流推進協議会」を設立し、生活困窮者自立支援法に基づく相談機関「そらち生活サポートセンター」（月形町）と連携。

○ 平成27年に花と野菜の直売所「花の里月形」を開店するとともに、乾燥野菜の商品開発や農家における労働力の需要調査を実施するなど、工賃向上のためにソフト面での研究を実施。

○ 平成29年から、「月形農福連携センター」など月形町内の２団体と、農福サポーター派遣や農泊などでコラボ事業を展開。

都市住民と田園生活者との出会い・交流の場として直売所を開店。

## 令和元年

農山漁村振興交付金事業に採択され、地域連携の取組を本格化。

### 「わが村は美しく-北海道」第９回コンクールで大賞を受賞

○ 農村景観の保全、地域における人の交流及び特産物の創出という観点から、農福連携の取組が先導性・モデル性の高い活動と評価され、北海道開発局主催の「わが村は美しく-北海道」運動第９回コンクールにおいて大賞を受賞。

## 今後の展望

### 里の暮らしを、すべての人に…

○ 里の暮らしの豊かさを未来に繋ぐため、地域固有の技術や生活の知恵を継承し、発酵食品を中心とした地域の食文化を広げていきたい。

○ 様々な人材を受け入れ、共に働くことによって共生社会を実現し、里の暮らしの持続的な発展に貢献したい。

除草作業

収穫作業

直売所の様子

令和元年「わが村は美しく-北海道」運動コンクールで大賞受賞

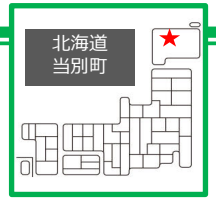
特定非営利活動法人
サトニクラス



更新年度:R5

# ③ 社会福祉法人ゆうゆう

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可




障害者、認知症高齢者、地域のボランティアなど様々な人の「働きたい」という「ひとりの想い」を大切に農福連携の活動を実践しており、農業や森づくりを通じて、障害者や高齢者、学生や子どもたちが繋がり、地域を元気にする輪が拡大。

## 基本情報

- 所在地：北海道石狩郡当別町
- 団体名：社会福祉法人ゆうゆう
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023 チャレンジ賞
- 主力商品：米、かぼちゃなど野菜4品目（野布瀬農園）、小鉢御膳（ぺこぺこのはたけ）、お弁当（東京大学U-gohan）
- 取得認証等：ー

収穫した米・野菜

季節の小鉢御膳

## 取組の概要

○重度障害、認知症、ひきこもり状態にある者等の就労ニーズや高齢化により離農する農家が多い等の地域課題に対応するため、令和元年に自社農園を整備。

○利用者のほか地域住民や学生ボランティアとの協働で農業・林業に取り組んでおり、地域から活動が見えることで相互理解が深まっている。また、農園や森で開催するイベントは、地域住民との交流の場となっている。

○コミュニティ農園が隣接したレストランを開設し、地域の就労場所を創出するとともに、自社生産の米や野菜を使用した食事を提供。

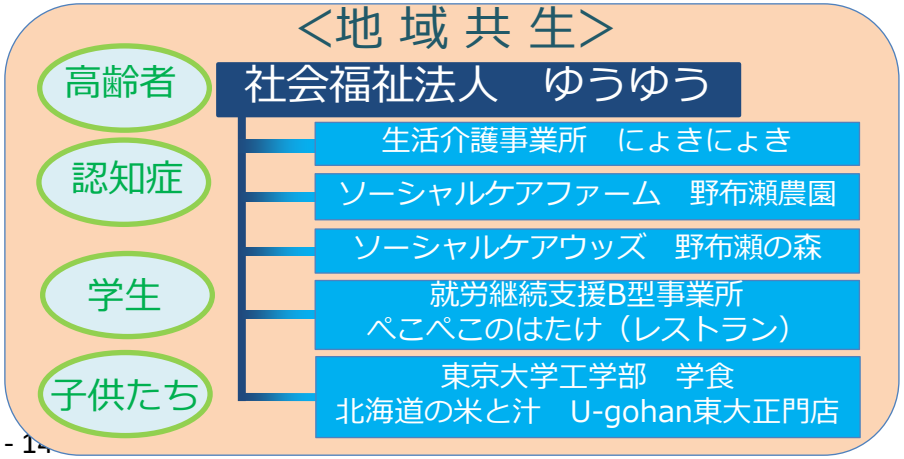
○東京大学の学食と連携し、自社の米・野菜を使用した弁当を販売。北海道の魅力と商品の背景にある農福連携の取組を学生に伝えている。

農作業の様子

子供たちとの交流

野布瀬の森イベント

## 体制図




## 取組の成果

○農業イベントや林業研修などで年間約900名と交流。保育園、高校、大学などの教育機関から実習を受け入れ、連携を深めている。

○レストランでは、年間約900万円、学食では約1,300万円売り上げている（令和４年度）。

○高等養護学校を中退してひきこもりの状態となっていた男性が、就労支援サービスである農業を通じて人との繋がりを経験し、農家へ一般就労を実現。

所在地▶北海道石狩郡当別町六軒町70番地18
連絡先▶TEL:0133-22-2896　E-mail:info@yu-yu.or.jp
ウェブサイト▶https://yu-yu.or.jp

# 【取組のプロセス】

**きっかけ**

**社会福祉法人設立以前から運営していた障害児のレスパイトサービスなどを行うボランティアセンターを卒業した障害児の就労先がないという課題を聞き、農福連携の取組を開始**

**平成17年**

ボランティアセンターを卒業した障害児の就労先がない

**平成23年**

美味しいお米が生産できる地域だが、高齢化など離農が多い

### 共生型コミュニティ農園「ぺこぺこのはたけ」開設

○ 地域とのワークショップにおいて、「成長した障害児が働く場所がほしい」、「当別の主要産業は農業」、「外食施設がほしい」などの声を受け、コミュニティ農園（10a）と隣接するレストランを開設し就労場所を創出。

地域住民との交流

**令和元年**

地域の森林が手付かずのため荒廃進む

### ソーシャルケアファーム「野布瀬農園」開設

○重度障害、認知症、ひきこもり状態にある者等の就労ニーズに対して自社農園を検討し、営農が継続困難な農家から農地（5ha）を取得。令和元年にソーシャルケアファーム野布瀬農園を開始。

お米の収穫作業

**令和3年**

### ソーシャルケアウッズ「野布瀬の森」開設

○ 以前から冬期の仕事が少ないのが課題であり、冬期に薪づくりが行える林業を検討。

○ 野布瀬農園に隣接する森（8.7ha）を購入し自伐型林業を開始。地域ボランティアの協力を得ながら森を活用したイベントを行うなど、交流の場としても活用。

森のイベント風景

**今後の展望**

### 「支え手」「受け手」を超えた地域共生社会の実現へ

○ 障害者や高齢者だけの制度やサービスに限定されない、だれもが頼り合って働ける場づくりを波及させ、地域共生を進める。

○ 長期的な視点で、農地や森を整備・管理し続ける体制づくりの実現に取り組む。

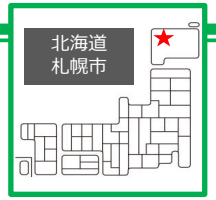
農作業の風景



更新年度:R5

# ④ 株式会社ファーストマインド 多機能型事業所ぴ～か～ぶ～WORKS

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可




自社農場での農作業やJA等と連携した地域の農作業の受託に加えて、地域の水路の掃除、草刈り、除雪を障害者が実施。

## 基本情報

- 所在地：北海道札幌市
- 団体名：株式会社ファーストマインド 多機能型事業所ぴ～か～ぶ～WORKS
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023 フレッシュ賞
- 主力商品：ミニトマト、キクイモ、ピーマンなどの野菜約20品目、乾燥ミニトマト、キクイモチップスなどの加工食品
- 取得認証等：ー

自社農場の野菜

自社加工食品

## 取組の概要

○児童発達支援等の卒業生の就労先として、農業に参入し、自社農場における農作業のほか、JAや地元企業と連携した農作業受託、水路や農道の掃除、高齢者宅の草刈りや除雪作業にも積極的に参加し、地域との交流を深めている。

○就労継続支援A型事業所における施設外就労では、農作業や夏季限定野菜加工場のほか通年で就労できる食品仕分け作業も確保。就労継続支援B型事業所では除草などの作業を受託。

○農福連携の取組に興味を持った、地域外の飲食店や不動産業者、スキー場などからも農産物販売等の申し出があり、販路が拡大。

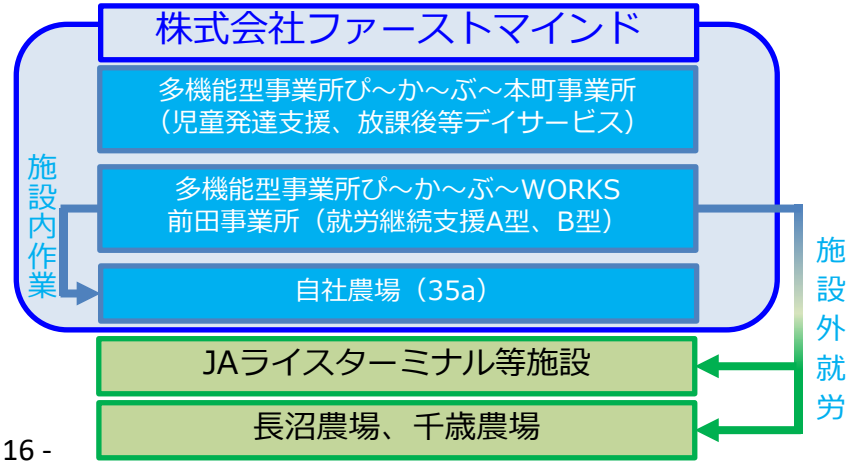
施設外での農作業

除雪作業風景

野菜の出張販売

施設利用者メンバー

## 体制図




## 取組の成果

○就労継続支援A型事業所では、責任感や、やりがいを持てるように、リーダー制度や作業スキルにおけるステップアップ制度を設けて賃金に反映。

○就労継続支援A型事業所利用者20名の平均賃金月額は10～15万円で、北海道平均を上回る給与を実現。これまで２名が障害者枠の一般就労に移行。

○就労継続支援B型事業所の利用者18名の平均工賃月額も約3万円と北海道平均を上回っており、４～６万円の工賃を受け取る利用者も増加。

所在地▶北海道札幌市手稲区前田７条10丁目６－12
連絡先▶TEL:011-215-7493　E-mail:pikabu.maeda@gmail.com
ウェブサイト▶https://www.pi-ka-bu.jp/

# 【取組のプロセス】

**令和元年**

高齢農家から農地借り受けの依頼

**きっかけ**

**児童発達支援及び放課後等デイサービスを卒業した利用者の就労先を確保するため、就労継続支援事業所を開設**

**令和2年**

事業を安定的に継続していくために、施設外就労先を探す

### 自社農場の農地拡大

○ 営農困難となった高齢者から、農地（35a）を借り受け。

○ 「キクイモ」及び「加工用ミニトマト」の栽培を拡大し賃金・工賃の向上を図る。

自社農場の風景

**令和3年**

規格外野菜の活用とデイサービスで提供する食材調達を模索

### 施設外就労先を開拓

○利用者の就労安定化や賃金・工賃向上のため、農作業ができる施設外就労先を探す。

○ JA関連施設やセコマグループの株式会社北栄ファームと契約し、就労の安定化を実現。

施設外就労の様子

**令和5年**

### NPO法人フードバンクイコロさっぽろとの連携開始

○ 事業所で使用する食材をフードバンクから、事業所で収穫した規格外野菜等をフードバンクへと相互提供する関係を構築。

○ 生産した野菜の行き先が見えるため、利用者のやりがいにつながっている。

フードバンクへ野菜提供

**今後の展望**

### もっと活躍の場を

○ 「福」の拡大として、子ども食堂を開設し、地域との繋がりを拡大。

○ キッチンカーを購入し、独自イベントや他地域を含めた様々なイベントに参加することで、利用者の賃金・工賃向上を目指す。

○ 就労継続支援A型事業所から一般就労へ繋げるため、連携企業の増加を図る。

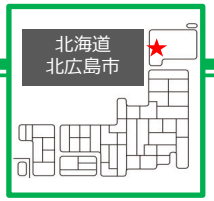
イベント出店の様子



更新年度:R5

# ⑤ 合同会社竹内農園

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可




大がかりな機械化を行わず、多品目の野菜を通年で栽培することで、継続的に障害者の作業を創出。
天皇・皇后両陛下（当時）が訪問されるなど、北海道で農福連携に興味を持つ方々にとり象徴的な存在。

## 基本情報

- 所在地：北海道北広島市
- 団体名：合同会社竹内農園
- 選定表彰：第11回コープさっぽろ農業賞ビジネスモデル賞優秀賞
- 主力商品：こまつな、中玉トマト、なす、にんじん、サニーレタス等の野菜15種類
- 取得認証等：エコファーマー

ハウスでの野菜栽培

## 取組の概要

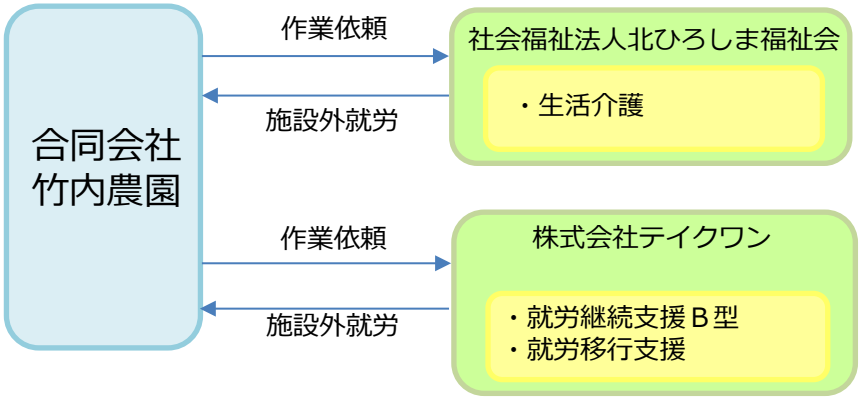
○社会福祉士の資格を持つ妻とともに夫婦で農場を運営し、近郊の就労継続支援B型事業所など３か所から、知的障害等を持つ利用者を中心に10名程を施設外就労として受け入れ、農地約４haで、野菜15種類を栽培。
○自走式のは種機や定植機を用いず、手作業を中心とした作業を創出し、障害者は、定植や収穫などの畑作業を行うほか、収穫物の袋詰め作業の95%程度を担う。
○自治体や農政事務所主催の視察を積極的に受け入れてきたほか、シンポジウムへ登壇及びメディアへの登場も多数。平成30年８月には天皇・皇后両陛下（当時）が訪問。

農作業の様子

手押し播種機

出荷作業の様子

## 体制図




## 取組の成果

○多品目の野菜の通年栽培により、年間200日程度の出荷作業を実現するとともに、多くの手作業の創出により、10名程の障害者を継続的に受入。
○ 機械の固定費を安くし、水耕栽培等の高額な施設を導入しないことで利益幅を確保し、安定的な経営を実践。
○ 平成27年３月にエコファーマーに認定。
○ 自らの知名度が高まることで、地域の農業者から相談を受け、自ら事業所とのマッチング役となっている。

所在地▶北海道北広島市島松490番地
連絡先▶TEL:080-1898-5258　E-mail: takenouen@gmail.com
ウェブサイト▶ http://takenouen.ohitashi.com/index.html

# 【取組のプロセス】

**きっかけ**

**輸送機器メーカーでのインド駐在時に、人や資源が流出する北海道内の産業の疲弊を感じ、故郷の北海道で就農することを決意。適材適所という観点から、地元で暮らす障害者や高齢者を農業に結びつけた農場の設立を志す**

インドの混雑した道路

**平成19年**

研修は、1年目に野菜の販売を学び、2年目に60種類の野菜の全般的な畑仕事をし、3年目に作物を担当。

**平成25年**

青年就農給付金経営開始型を利用。

### 合同会社竹内農園の設立、農福連携の取組開始

○ 知的障害者を主にした社会福祉法人の施設で働いた後、道央農業振興公社の研修生として主に恵庭市の農業生産法人で3年間研修生として農業を学び、平成25年10月に合同会社竹内農園を設立。

○ 平成26年の春に、北広島市の農家から約３haの農地を借り受け、研修終了後の同年４月に就農。就農当初から、同市内の就労継続支援Ｂ型事業所と農福連携の取組を開始。

収穫したトマト

農作業の様子

**平成27年**

エコファーマーの認定を受け、農薬や化学肥料の使用を控えた栽培に取り組む。

### 「選択と集中」から「カイゼン」へ

○ 平成27年（就農2年目）には、それまで参加していたお祭りやイベントでの農産物販売をやめ、その時間を畑の仕事に充てるとともに、作物についても、葉物を中心とした野菜栽培から、旬に合わせて、果菜類や根菜類も取り入れた栽培に変更。

○ 平成28年（就農3年目）から平成30年（就農5年目）にかけて、「か・け・ふ（稼ぐ・削る・防ぐ）」を合言葉に、売り上げを増やして経費を削り、リスクに対応できる能力を磨くことに重点を置き、積極的に業務改善に取り組み始める。

6月から7月収穫の小松菜

**令和2年**

経営面積は約4haに拡大し、障害者就労を踏まえた15品目の野菜を栽培。

### 障害者受入れの拡大（地産地消にも繋がる取組）

○ 令和２年８月に、新たに北広島市内の障害者支援施設事業所と業務委託契約を締結。収穫した野菜は、事業所が運営するレストランのメニューや弁当などにも活用され、北広島産の食材の地産地消に貢献。

4月は種5月収穫の小松菜

**今後の展望**

障害者が働く環境をより良くするために、作業のフローを見直し、新たな作物の導入も試行錯誤しながら、トライ＆エラーで改善を進める。

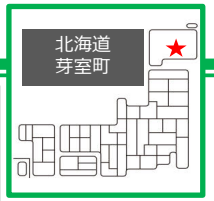
### PDCAサイクルにより継続的に業務改善を検討・実施していく

○ 積極的な投資により経営面積を拡大することで生産量を増やし、障害者の工賃向上を目指すとともに、特定の時期に集中している作業の平準化及び新たな作業創出のため、にんじん出荷調製場の改善や、 加工品への挑戦、越冬作物の試験、収穫とパック詰めのタイミングの改善などを検討。

更新年度:R5

# ⑥ 株式会社九神ファームめむろ

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可




官民一体の就労参画プロジェクト「プロジェクトめむろ」による農福連携モデル。十勝ブランドの活用と、出資企業によるばれいしょの買い取りで、安定した収益と高い賃金を実現。

## 基本情報

- 所在地：北海道芽室町
- 団体名：株式会社九神ファームめむろ
- 選定表彰：第３回ディスカバー農山漁村の宝 アクティブ賞（主催：農林水産省）
- 主力商品：ばれいしょ
  ※出資企業である惣菜店に販売
- 取得認証等：ー

１次加工処理の終わったばれいしょ

## 取組の概要

○ 就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」を運営し、知的・精神障害を持つ約20名の利用者が、借用する農地約４ha及び加工場で、野菜生産及びばれいしょ、ごぼう、ながいも等の１次加工作業を通年で実施。

○ １次加工したばれいしょの全量を出資企業が買い取ることで、安定した収益を確保。

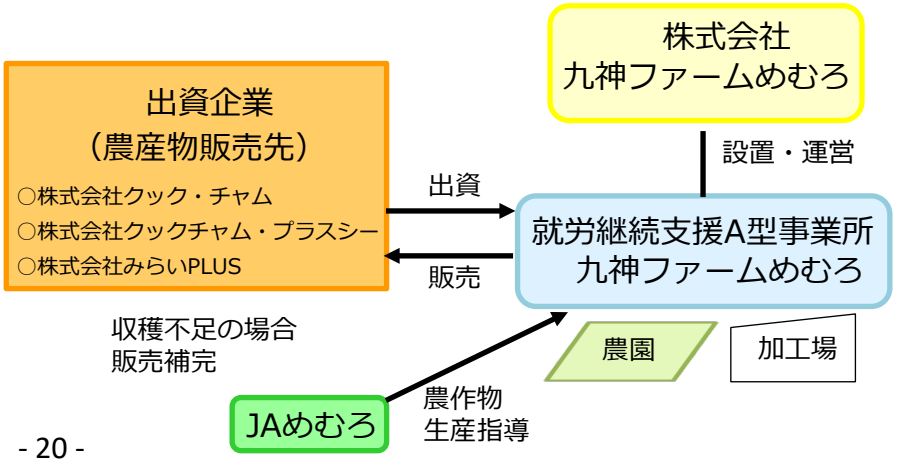
○ ＪＡめむろからは、農作業指導を受けるほか、収穫量が不足する場合は、ばれいしょを提供してもらうなど、協力体制を構築。

加工場外観

農作業の様子

加工場での作業

## 体制図




## 取組の成果

○ 平均賃金月額は約11万円であり、高賃金を実現。
○ 本プロジェクトにより、町内に多くの障害者の就労先が創出された。
○ 地元の離農した農業者に、農業サポーターとして農作業の指導を行ってもらうことで、高齢者の生きがいとなる場所を創出。
○ 利用者は、働くことや安定的な賃金を得ることを通じて成長し、更なるキャリアアップを実現。役場、JA、食品販売店などの一般就労に移行した者も多数。

所在地▶北海道河西郡芽室町中美生2線47番地1
連絡先▶TEL:0155-65-2280　E-mail:ー
ウェブサイト▶ http://kyujinfarm-memuro.co.jp

# 【取組のプロセス】

**きっかけ**

**芽室町が、町内の低い障害者就労率を改善するため、障害者雇用に先駆的に取り組む企業の誘致を行う中、既に他企業へのコンサルの実績のあった四国の民間企業にアプローチし、十勝ブランドの農作物の生産・加工を通した障害者就労のビジネスモデルの提案を受けた**

## 平成24年

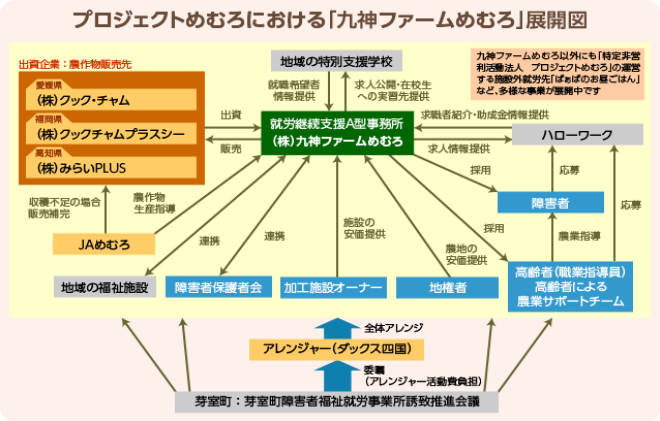
平成24年8月に、芽室町が「プロジェクトめむろ」の構想を確定

## 平成25年

### 就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」の設置・運営開始

○ 平成24年12月に、複数の道外企業の出資を得て、株式会社九神ファームめむろを設立。翌年２月には、芽室町初の就労継続支援A型事業所である「九神ファームめむろ」が事業認定され、同年４月から運営を開始。

○ 障害者（当初９名）のみならず、農業サポートチームとして、地域の高齢者（職業指導員）も雇用。




## 平成27年

平成27年４月に、事業所の利用２名を職員として採用

### 新加工場稼働、就労キャリア教育事業の開始

○ 平成27年２月に新たな加工場（嵐山工場）を整備・稼働し、従来から取り扱っていたばれいしょのみならず、ごぼうやながいも等も導入し、障害者の加工作業を拡大。

○ 平成28年４月から、農業体験・加工体験を活用した管内特別支援学校の修学旅行や、道外大学の学生の農業体験の誘致において、NPO法人プロジェクトめむろ（芽室町から観光事業を受託）と連携。

○ 平成28年に、農林水産省主催の「第３回ディスカバー農山漁村（むら）の宝」において、女性や高齢者、障害者の活躍がその活動の大きな原動力となっている優良事例として、アクティブ賞を受賞。

都市農村共生・対流総合対策事業（集落連携推進対策、人材活用対策）に採択

収穫作業の様子

## 今後の展望

### 誰もが当たり前に働いて生きていける仕組み創り

○ 就労定着支援や障害者の生活の場の整備、障害者雇用の職域開拓・理解促進のための企業説明会や企業訪問の実施などを通して、誰もが当たり前に働いて生きていける町を目指して、プロジェクトを継続。

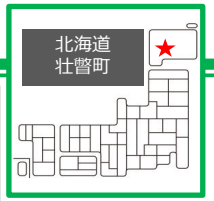
加工作業の様子



更新年度：R5

# ⑦ 合同会社たつかーむ　合同会社自然農業社

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可




有機栽培と平飼い養鶏によって生産物のブランド化に成功。北海道内の農作業に取り組む障害福祉サービス事業所でトップクラスの工賃実績を誇り、30年以上の歴史を持つ農福連携の取組。

## 基本情報

- 所在地：北海道壮瞥町
- 団体名：合同会社たつかーむ　合同会社自然農業社
- 選定表彰：第３回コープさっぽろ農業大賞特別賞（主催：コープさっぽろ農業賞実行委員会）
- 主力商品：平飼い有精卵、無添加みそ、熟成黒にんにく、豆のドライパック、有機大豆、有機野菜(だいこん、ズッキーニ、たまねぎ等)
- 取得認証等：認定農業者、有機JAS認証

## 取組の概要

○ 知的・精神障害を有する約40名の利用者が、農地約11haにおいて野菜の有機栽培を行うほか、鶏舎11棟で約3,000羽の平飼い養鶏を通年で実施。

○ 事業所の利用者は、養鶏については、給餌、採卵・洗卵、鶏舎清掃等に従事。また、野菜栽培については、播種、肥料散布、除草、収穫物の計量・袋詰め等に従事。

○ 大豆を味噌やドライパックに加工するほか、親鶏のレトルトチキンカレーや熟成黒にんにくの製造、鶏卵を用いた菓子の製造販売などで、冬期の作業を創出。

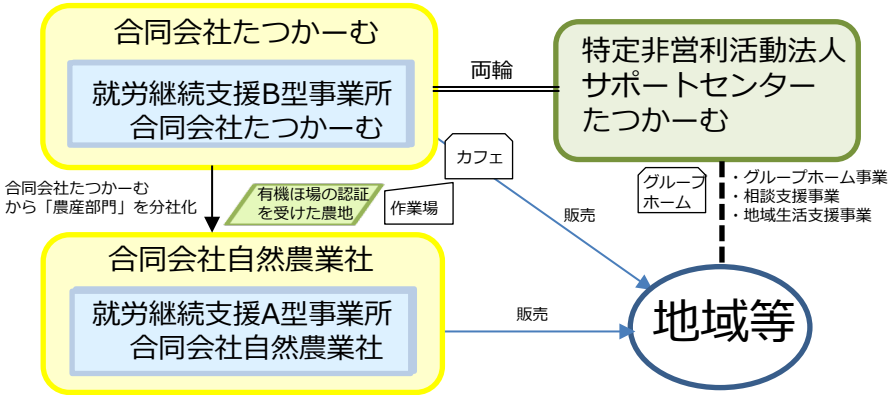
○ 平成16年にNPO法人を設立し、通所出来ない障害者のためのグループホーム事業を開始。また、平成26年にカフェをオープンし、生産した鶏卵や野菜を食材として使用。

平飼い養鶏の様子

平飼い有精卵

農作業の様子

## 体制図




## 取組の成果

○平成13年、農産物の有機JAS認証を取得。付加価値の高い農畜産物や加工品の販売により、平均月額賃金等は、たつかーむのB型が約５万円、自然農業社のA型が約９万円と、北海道内の事業所で高水準を実現。

○ 一つの運営法人が、およそ30年間もの長い年月をかけて、障害者の生活に必要な多くの施設と、確かな農業技術による経済活動の基盤を築き上げてきたことで、障害者が、町内で自立して生活していける場を提供する役割を担っている。

所在地▶北海道有珠郡壮瞥町字立香92番地12
連絡先▶TEL:0142-66-3345　E-mail:farm@tatukam.jp
ウェブサイト▶ https://tatukam.jp

# 【取組のプロセス】

**きっかけ**

**障害をもつ人や社会の中で不利な立場にある人たちが、他の人たちと対等に働きながら、地域の中で、自然や他者との関わりを通じて経済的・社会的自立を達成するための取組を志した**

**昭和61年**

壮瞥町へ移住し、障害者の学習塾及び相談室を開設。並行して農地を探す

**昭和62年**

養鶏事業が軌道に乗る一方、有機野菜は当時、差別化が図りづらく収入に結びつかなかった

## 農場たつかーむの設立

○ 離農農地（農地１ha、宅地・山林等１ha）を取得し、昭和62年に農場たつかーむを設立。知的障害者との共同生活を送りながら、有機農業及び自然養鶏業を開始。

○ 平成３年に共働作業所を開設し、平成６年からは農産物宅配サービス事業を開始。

設立者夫妻

**平成13年**

平成13年
第3回コープさっぽろ農業大賞特別賞受賞

## 有機JAS認証を取得、NPO法人の設立

○ 平成３年に農産物の有機JAS認証を取得し、有機野菜での差別化を図る。積極的に有機農産物認定のほ場を拡大。

○ 平成16年にNPO法人「サポートセンターたつかーむ」を設立し、従業員寮をグループホームの制度にのせ、グループホーム事業を開始。また、平成19年からは同法人で「地域活動支援センター」事業を開始し、平成24年に相談室フロイデを開設。

カフェ外観

**平成26年**

平成19年に就労継続支援A型事業所、平成21年に多機能型事業所の指定を受ける

令和２年に就労継続支援B型事業に１本化

## 農場内にカフェを併設、農産部門の分社

○ 平成26年に農場直営のカフェを開店し、収穫した卵や野菜を使用。

○ 平成27年に農産部門を合同会社自然農業社（同名の就労継続支援A型事業所を運営）として分社化。

○ 出荷鶏肉を利用したレトルトカレーなど食品加工にも進出し、平成29年に「たまご屋さんのチキンカレー」（レトルトパウチ）が商品化。

給餌風景

**今後の展望**

## これからも・・・

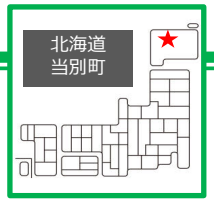
○ 合同会社たつかーむにおける共生・自立の営み・挑戦が、どんな人も、共にあたりまえに暮らせる社会づくりのいしずえになることを信じて、これからも畑を、そして地域を、耕し続ける。



更新年度:R5

# ⑧ 一般社団法人Agricola

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可




採卵鶏での有機JAS認証取得により、付加価値の高い農業生産を実現。高品質な卵と元精神科看護師による専門的なサポートにより、農福連携の取組において、多数の就労と健康を生み出す。

## 基本情報

- 所在地：北海道当別町
- 団体名：一般社団法人Agricola
- 選定表彰：ー
- 主力商品：オーガニックエッグ、平飼い卵、亜麻仁卵
- 取得認証等：有機JAS

（写真上：
有機ほ場での平飼いの様子）
（写真左：主力商品
「オーガニックエッグ」）

## 取組の概要

○ スペシャルニーズを持つ（特別な配慮を必要とする）利用者15名が、有機ほ場の認証を受けた3.5haの農地を利用したビニールハウス鶏舎６棟、木造鶏舎１棟や畑で、養鶏（約6,000羽の鶏を平飼い）や野菜の栽培に通年で取り組む。
○ 身体にスペシャルニーズを持つ利用者には、伝票作成などの事務作業に従事して、特長に応じた作業分担を実施。
○ 近隣の農福連携の取組主体から野菜の調理くずを引き取り、鶏の飼料として活用することで、循環型農業の取組を実施。
○ 元精神科の看護師である代表者夫妻が、専門知識や経験を生かし、利用者の体調管理や相談事へのきめ細やかな対応を行い、利用者同士の人間関係にも配慮。

「養鶏」･･･商品種類別の専用ケースを集卵側と洗卵側の両方に用意し、移し替えることで、異なる商品の混入を防止。

「配合飼料」･･･臭みをなくすため魚粉の使用を最小限とし、北海道産の原料にこだわった自家配合飼料を鶏の餌に使用。

「有機野菜」･･･有機ほ場の認証を受けた農地で野菜を栽培。

## 体制図

一般社団法人
Agricola

設置・運営

就労継続支援A型事業所
Farm Agricola

就労継続支援B型事業所
Largo

鶏舎　農園
有機ほ場の認証を受けた農地

↕

GPセンター
洗卵・加工施設

## 取組の成果

○ 令和元年7月、就労系障害福祉サービス事業所の設置・運営法人として全国で初めて、採卵鶏での有機JAS認証を取得。また、飼料の全量を国産で賄っており、福祉主体でありながら高難度の取組に成功。
○ 生産される高品質な卵は有名ホテルにも販売され、売上げの増加に伴い、事業所の利用者数は、取組開始当初から倍以上に増加。
○ 養鶏の作業や専門的なサポートにより、精神にスペシャルニーズを持つ利用者の抗精神病薬の服薬量が、多くの場合で1/2～1/3にまで減少。

所在地▶北海道石狩郡当別町字金沢1779-17
連絡先▶ TEL:0133-27-5551　E-mail:info@agricola.jp
ウェブサイト▶ https://www.agricola.jp/

# 【取組のプロセス】

**きっかけ**

**精神科の看護師として勤務する中、病院で行う精神医療に限界を感じ、農業主体で収入を確保し、看護師として精神的なフォローを行うことで、精神にスペシャルニーズを持つ方の就労が可能となり、入院に至ることを少しでも防げるのではないかと考えた**

**平成27年**

イニシャルコストが抑えられ、通年作業が可能である養鶏を選択

**平成28年**

農山漁村振興交付金を活用し、鶏卵の加工施設（洗卵設備）を整備

### 一般社団法人Agricolaの設立、事業所の運営開始

○ 平成28年８月に一般社団法人Agricolaを設立するとともに、平成29年４月に就労継続支援A型事業所「Farm Agricola」を設置し、当初から農福連携の取組を開始。

ほ場作業風景

**平成31年**

### 採卵鶏での有機JAS認証を取得

○ 令和元年７月、就労系障害福祉サービス事業所の設置・運営法人として全国で初めて、採卵鶏での有機JAS認証を取得。

燻製商品

**令和2年**

### 飼育する鶏の数が6,000羽に達する

○ スペシャルニーズを持つ方の雇用及び工賃水準を確保するため、段階的に鶏の数を増やし、令和３年９月には4,200羽に到達。
○ 入替となる鶏の一部は、剣淵町の業者に依頼し、燻製にして商品化。
○ 令和３年から、１haのほ場で有機デントコーンを栽培し、有機飼料の自給を開始。
○ 令和４年に木造で新鶏舎を建築し、飼養羽数が6,000羽となる。

鶏舎の風景

**令和4年**

農林水産省主催の農福連携育成研修で、障害福祉サービス事業所職員向けの講師を務める

### 就労継続支援B型事業所　Largo　を設立

○ 心身の変化や高齢化などにより、就労継続支援A型事業所での就労が困難な利用者に対して、地域での受け皿になれるよう、令和４年９月に就労継続支援B型事業所を設立。

**今後の展望**

### 国産の有機飼料による養鶏、鶏卵加工品の製造・販売

○ 近隣市の農家から子実とうもろこしを購入したり、有機大豆を自家栽培するなどして、国産の有機飼料による養鶏を進めていきたい。
○ 就労継続支援B型事業所を運営することで、より幅広くスペシャルニーズを持つ方々を支援しながら、マヨネーズなどの鶏卵加工品を製造・販売し、経営の拡大に繋げていきたい。
○ 利用者の現在及び今後のQOL向上を目的として、社会保険を完備したい。

更新年度:R5